

“知ってみよう、感じてみよう” 様々な生き方を知り語り合おうワークショップ

1 取組の目的・全体像

『人権の尊重に関する三鷹市の上位規範として、諸施策に通底する理念や方向性を提示』を目的に掲げ、令和5年度に人権基本条例(仮称)を制定しようとする三鷹の市民として、本事業では「人権を考え、人権意識を自分事として考える三鷹市民をめざす」ことを目的とする。具体的には、昨年度実施した取組の成果を大切にしつつ、「様々な人が社会の一員であることを知る・感じとる」ことをテーマに、多様な属性の講師の語りや歌などを通して、参加者が感じたことや問題意識を、自分の言葉で語れる場(ワークショップ)を提供する。

また、誰をも取り残さない人権尊重された街づくりとして、

①暮らしの中で「誰からも手を差し伸べられないこと」「他者からのイヤなこと」等、本人も周りも気づかず、一人で悩んでいる状況に置かれている現状がある

②多くの市民が自他共に抱える生きづらさ、モヤモヤ感を、本人次第と思わせられたり(=自己責任)、また「思いやり」や「優しさ」という曖昧な言葉で解決できると考えたり、他人が定義したりする風潮がある

③生きづらさが個々の「人権」と繋がっていることに自分も他の人も気づかないという課題が、人権基本条例(仮称)を制定しようとする三鷹にもあると考える。

そこで、今年度は以下の概要の取組を行った。

【概要】

昨年度実施した取組では、Rapという表現手段を通じて、生きづらさ、モヤモヤ感を持つ人々が自分の置かれている状況を「自分の言葉」で表現し、認識し、人に伝えることができるようになることを目指し、参加者から好評を得た。

私たち市民が人権尊重を自分事と感じられ、「人権を尊重する街、三鷹」の一市民、構成員である自覚の醸成を目指して取組を行った。

2 取組のポイント

■方法

参加した人が、先駆者の活動や話に触発されて、自分事とする、共感の輪を広げる、自分でできることを探すことを考える体験できるワークショップとした。

■講師

「NPO法人共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク」の方に講師を依頼した。

●丸山まさよしさん：lag代表/共生ネット理事/(一社)SOGIE相談・社会福祉全国協議会事務局次長

●岩崎徳子さん：共生ネット副代表理事/キャリアコンサルタント/公認心理師

※共生ネットさんは、性的マイノリティへの根強い偏見を解消するべく国や様々な地方自治体と連携しながら、LGBTQ当事者やその家族への相談、交流、居場所事業、市民講座、職員・教員・相談員研修、支援者育成事業、関連団体とのネットワークづくりを行っている。

■本事業のポイント

- 講師の方々の、現在のLGBTQの状況や体験に基づいた講演を聞いた後、参加者が語り合うワークショップ（かたりば）を実施することで、自分ひとりではなく、様々な人たちが悩んでいると気づき、共感を得ること。
- マイクロアグレッションやアンコンシャスバイアスなどの例を取り上げ、無意識に相手を傷つけてしまうような言動や行動について理解を深めること
- 共感を得ることで他者へのまなざしを学ぶこと
- そのノウハウをまとめ、継続していくことで、「かたり場を通して人権を考え、属性を超えた輪があちこちに広がり、「誰も取り残されない三鷹」の活動へつなげていくこと。そのために今回の活動を動画で記録する。
- 「誰でも参加できる」こと

■当日の流れ（参加者が不安を感じずにディスカッションするために、事前にグランドルールを提示する）

1. 講師の「現在のLGBTQの状況」「自身のライフストーリー」等の体験などを聴く
2. 「かたり場」：グループにわかれ、講演を通じて感じた事や自分の思いなどを語り合い、参加者でシェアする

3 取組の成果

■「一人十色でかたりば会」主催事業の「「知って、見つめて、語り合おうジェンダー、性の多様性から」2回開催。

参加者：2月12日（月・祝日）午前 13名、午後 12名



2月12日
午前の会。
講演の様子



2月12日
午前の会。
「かたりば」の
様子

■参加者の声・結果(実施後参加者アンケート:12名回答/参加25名)

ワークショップには、21歳～85歳まで幅広い年代の方々、男性・女性・当事者と感じている人など、また、生活が困難と感じているなど多様な方々の参加を得られた。ワークショップ終了後、講師と個人的な問題についてと思われることを話し合う参加者が数名いた。イベント実施後に行ったアンケートの結果は以下のとおり。

- ① 参加の感想（複数選択可）
 - ・知らないことがわかった（5名）
 - ・考えさせられた（5名）
 - ・もっと知りたいと思った（3名）
 - ・様々な人と話げできた（2名）
 - ・自分の思いや意見が言えてよかった（2名）
- ② 次回の参加意向

- ・参加したい（8名）
- ・どちらかというに参加したい（4名）
- ・参加したくない（0名）

⇒次も参加したい人が回答者中、100%であった。

③ 生の声抜粋

- ・自分以外の当事者のお話が聞けてよかった
 - ・これから生きていく上で指標・目標となるようなロールモデルが不足している現状、自分より年上の”同類”の方の経験やライフストーリーはとても貴重なものだと思う
 - ・普段あまり意識をしていないテーマでしたらから考えました
 - ・生活に追い詰められて狭い考えに囚われていた
 - ・自分の中のフィルタを意識するきっかけになりました
 - ・性的少数者の方々が遭遇する困難について具体的に知ることができた
 - ・自分の勉強不足を感じることもできた
 - ・気づかないうちに傷つける言葉を使わないようにしなければと痛感した
- 以上のとおり、参加者からはワークショップの「知ってみよう、感じてみよう」様々な生き方を知り語り合おう」という趣旨にかなう評価・感想が得られた。

⇒昨今、性の多様性に関する同様のテーマの講演もある中で、講演後に語り合うことでより深く理解・振り返りができる場を三鷹市の支援で得られたことは、『人権の尊重に関する三鷹市の上位規範として、諸施策に通底する理念や方向性を提示』を目的に掲げ、人権基本条例(仮称)を制定しようとする三鷹の理念の尊重につながる活動となった。

4 次年度以降の取組について

■課題

1. 昨年度の経験を踏まえ、多くの人に参加してもらうため、早めにチラシを配布したり、大学の掲示板掲載、広報掲載や、地域イベント紹介アプリを通して周知を図った。また、前年度のイベント参加者へのメール等での周知を行ったが、参加者募集にはまだ課題があると思われる。
→地域コミュニティなどの諸団体との連携や口コミなど更なる周知・輪を広げる工夫が必要と考える。
2. 今年度は2つのテーマでの「知って、見つめて、語り合う」かたりばワークショップを計画した。当初の計画では、テーマ1の講座に参加した方々をテーマ2にもつなげることで、共生社会に不可欠な人権意識を更に深めることを考えていたが、諸事情のためテーマ1は中止となった。
3. ジェンダーのライフストーリーやライフイベント、シーンなど、キャリアステージごとの身近な例を、より具体的に掘り下げ、ジェンダーを閉じ込める「ずるい言葉のからくり」を分析し、今後に生かせる処方箋を考える。

■展望

今回、現社会において生き易さでハンディキャップを持つ当事者を講師に迎え、参加者にもある問題も洗い出し、共に語り合う中で理解や連帯が生まれていく場面が多く見られた。人権に関わるテーマは日常の話題になりにくいのが、いろいろな方法や切り口で「講演やプレゼン+かたりば」に継続性を持たせることで、市民の中に理解深堀・拡大が見受けられると思われる。

ダイアログを通じた参加者同士の親近感やつながりが生まれ、参加者の輪を広がるこの方法に継続性を持たせることで、更に進化・洗練させ、人権に関する三鷹らしい活動が可能になると考えられる。また、他の自治体にはない事業を継続することで三鷹市民の誇りの醸成がなされていくのではと思われる。

今後に生かすために撮影した動画も参考に、今後も内容をブラッシュアップさせながら、同様の取組を継続していきたい。

<取組の報告を受けた選考委員からの主な意見（助言等）>

- ・この取組は、SDGsの国際版のテーマであると言える。このようなテーマを扱うことで、SDGsの意識の普及に寄与することができるなど、より良い取組になると思う。また、LGBTQについて深堀しながらも、人権全体を考えるとといったアプローチがあってもよいと思う。